

# 会議録

◇詳細—文化観光課マンガ・アニメグループ 電話03-4566-2758

附属機関又は 会議体の名称		第5回（仮称）マンガの聖地としまミュージアム 展示・建築設計検討会議
事務局(担当課)		文化商工部文化観光課
開催日時		平成30年2月21日(水) 19時00分～21時00分
開催場所		豊島区役所1階としまセンタースクエア
会議次第		1 開 会 2 議 事 (1)公園改修計画 (2)設計の変更点 ・建築設計の変更点 ・回遊情報コーナー ・2階居室の展示 (3)管理運営計画 (4)その他
公開の 可否	会議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員	里中座長、秋田委員、幸森委員、内田委員、黄委員、山田委員、栗原委員、 足立委員、寺田委員、羽場委員、酒井委員、小出委員、東澤委員、小澤委員、 小椋委員 計 15 名  欠席者 小林委員、近藤委員、小堤委員、樋口委員
	事務局	文化商工部文化観光課

## 審議経過

**事務局：** 皆様、こんばんは。定刻になりましたので、ただいまから第5回（仮称）マンガの聖地としまミュージアム展示・建築設計検討会議を開催させていただきます。本日の出欠ですが、委員M、委員P、委員Q、委員Sについては欠席のご連絡をいただいています。

本日は高野区長にもご出席いただいております。ご挨拶いただければと存じます。よろしくをお願いします。

**区長：** 皆様、こんばんは。夜7時という会合で恐縮しています。今日は第5回です。皆様方の力で、一步一步この計画が着実に進んでいるのではないかと思います。座長の里中先生をはじめ、委員の皆様のご熱心さが、ちょっとオーバーですが豊島区中に伝わっているのではないかと思います。今回は第5回で、来年度4月には最終検討会議を行いまして、展示あるいは建築の基本設計が完成します。着実に進めていきたいと思っております。前回の会議では、2階の再現展示の考え方やそれに基づく設計図、1階の回遊情報の設計等々について議論をいただきました。今回の会議では、南長崎花咲公園の改修計画あるいはミュージアム本体の計画の変更点、またミュージアムの管理運営計画などについての資料が準備されているようです。

さて、つい先日、17日土曜日、18日日曜日に、この場所で「としまマンガ・アニメフェスタ」を初開催しました。準備期間が短く、バタバタとやったようですが、皆さんに一生懸命やっていたおかげで、素晴らしい成果があがり、2日間で800人を超える人たちにお越しいただきました。また、この会場では、南長崎のトキワ荘協働プロジェクトの皆様にも、トキワ荘の玄関の再現展示等をやっていただき、ひときわ光っておりました。またマンガジャンパンの皆さんによる似顔絵も大変好評だったと聞いています。あと紫雲荘のマンガ体験教室、紫雲荘のお部屋を映すVRがよかったです。あれも拝見させていただいて、まさに再現をするような形ですごくよかったです。また、山田先生にはご講演をいただいて、絵も頂戴しました。大変盛り上げていただいて心から感謝申し上げます。「トキワ荘を語る」という講演会をやっていたようで、講演もいくつかあったようでございますが、なにぶん忙しかったもので、ちらっと見ただけで大変申し訳ないと思っておりますが、私の実感としては一歩も二歩も前に進んだように感じております。

特に会場で、「トキワ荘を再現します」というパンフレットの配布をスタートしました。お手元の配布資料も見たいのですが、ふるさと納税と合わせて寄附のお願いとして、「トキワ荘再現施設整備寄附金」のお願いをしました。本来であれば全て私の直筆であるべきのところサインという形になっておりますが、熱い気持ちを込めてお願いしています。趣意書の裏を見てください。目いっぱい、180人を超える方々のご賛同をいただいて、名を連ねていただきました。急なことだったので、バタバタとやったのですが、まだまだ、もっともっと皆さんに募金への賛同をいただくことで、トキワ荘はものすごい盛り上がり、ブームと言いますか、風を呼び込むのではないかと考えています。私も忙しいなか、これの電話を30回か50回くらいしました。電話したなかで、一人も断った人はいませんでした。全員が喜んでお名前を使ってくださいと言ってくれた。まだまだ今日のメンバーの方にもお話がいていなかったことであろうかと思うのですが、これは寄附を盛り上げてくださいというものです。そして最終的には寄附もお願いできないかと。大塚にお住まいの方にこのチラシをお渡ししたところ、すぐ寄附を持ってきてくれた。このような形で、まちで盛り上げていく、そういうスタイルを取るのが豊島区方式。まさに豊島区皆がこういう熱い思いを持つ

て、全国に、全世界に広めていく。これは強いと思います。偉い人の名前ではなく、一人ひとりが手作りで作り上げていく。これがトキワ荘の一番の趣旨ではないかと思う。時間のあ  
る限り、私は第2次、第3次募集をする。このような形で寄附の輪を広げていきたいと思っ  
ています。皆さんのお力も、また、お知り合いの人等々から趣旨に賛同いただいて、発起人  
になっていただければと思う。これは豊島区に限りません。全世界です。私の目標は千人で  
す。大変大きな目標ですが、千人の方が盛り上げてくれる。どんどん広がっていく。これが  
トキワ荘の大きな応援団になっていただけるのではないかと思います。

大変話が長くなりましたが、かなり色んな形のなかでこういう話が進んでいます。豊島区  
の広報誌にも、THE トキワ荘、トキワ荘特集。マスメディアを使って、打てるところには  
じゃんじゃん打っていきます。皆さん方で練りに練って、強い情熱を持ってトキワ荘に取り  
組んでいます。まさにこれがスタートになるのではないかと思います。

豊島区は今、大きく変わろうとしています。来年には東アジア文化都市の開催、そしてオ  
リンピック、パラリンピック。それに向けて、いろいろな形の中で、まちづくりの仕掛けを  
着々と進めていますので、どういうまちになるか私自身わくわくしており、どういうまちに  
なるか分からないくらい、大きな夢が広がっています。

そしてこの池袋の中心に赤いバスが走ります。水戸岡鋭治先生が今デザインしているこの  
赤いバスは、土日祭日はトキワ荘まで行こうという、そういう計画も立てています。池袋に  
来たら、南長崎の方へ、あるいは巣鴨・大塚の方へというように、まち全体が盛り上がって  
いくのではないかと。そして東アジアという大イベントがあるので、皆を一緒にこの風に乗せ  
ていきたいという思いです。

大変長くなりました。この所、色々な形の中で情報を得て、議会の方にもご報告をしてい  
ます。この寄附には、選挙違反になってはいけないということで、議会の人には誰も載ってい  
ません。議員の方は載せていませんが、そういう風がまさに吹いてくるように、仕掛けてい  
きたい。盛り上がりをしていきたい。特にトキワ荘協働プロジェクト協議会の皆様もそうで  
すし、地元の人、一人ひとりに声をかけて、お名前を載せられるようにしてください。地元  
でこれだけ盛り上げ、さらに、遠い親戚、近い親戚のように参加していただけるようにして  
いければと思っています。このトキワ荘を作るにあたって、もちろん寄附というような形でも  
お願いしますけれども、さらにマンガやトキワ荘に関する資料についても、ぜひお声掛け  
をして集めていきたい。これはトキワ荘ができることによって、貴重な資料をちゃんと保管  
をして、永遠に、永久に、豊島区が責任をもってお預かりをする、活かしていくというよ  
うな形で考えています。まさに、トキワ荘によって様々な夢が大きく広がっていくように皆様  
とともに努力していきたいと思います。長くなりました。どうぞよろしくお願いします。あ  
りがとうございます。

**事務局：** 区長、ありがとうございました。それではマスコミの方は、撮影はこれまでということに  
させていただければと思います。以降はマスコミ席の方で傍聴していただければと思います。  
よろしく申し上げます。

それでは、これからの進行を里中座長、お願いします。

**委員A：** それではこれから議事に入りたいと思いますが、その前に傍聴の確認をしたいと思いま  
す。本日、傍聴希望者はいらっしゃいますか。

**事務局：** 遅れていらっしゃる方も含めまして、4名です。これよりお入りいただきます。

**委員A：** それでは議事に入ります。まず議事の「(1) 公園改修計画」についてご説明いただい

ら、委員の皆様からご意見を頂戴します。それでは受託事業者の丹青社より、説明をお願いします。

**丹青社：** 1. 公園改修計画

資料5-1、南長崎花咲公園現況写真という資料について説明させていただきます。

まず写真の方、1枚目、こちらが資料5-1の左上、「入口」と書いてある所からの風景になります。左上がトキワ荘通りです。そしてこの写真の一番奥の方、木の陰になる所にトキワ荘が再現されます。まずここで大事なことは、トキワ荘通りを通るときに、「トキワ荘がここにある」と分かってもらえるようにするのが1点。2点目は、ここが地元の住民の方がゲートボールをしたり、色んなことに使われている公園になりますので、ここを横切っていくたり、邪魔するようなことはあってはいけないということ。この2点について検討しています。

まず写真の方、左側の方に「トキワ荘のヒーローたち」というモニュメントが現在あります。そして右の方に白いフェンスが見えますが、現在は砂場があります。このままですと、丁度砂場の間を通して入ってしまう形になってしまいますので、提案といたしまして、図面の写真でいう右側の建物に沿って、昔のトキワ荘の通路があったような形で通路を設置し、新たなトキワ荘に入っていくように表現したらどうかと考えています。ここにはトキワ荘の三角柱の看板も立っていて、トキワ荘がここにあるということを表示しようと思っています。そしてこの塀の間、路地の中にはポスターやトキワ荘に関連する情報を提供できるものを設け、来館者にはまずここに入っていくように誘導するという事を考えています。そしてここで、公園との動線と完全に分離する。

この通路で情報を得た後、正面、平面図面で9番の誘導サインがありますが、これで右に誘導していきたい。その先の13番の所に、現在トキワ荘通りに面したところにある「トキワ荘のヒーローたち」のモニュメントを移設します。モニュメントにより、こちらに人を誘導していく。ここはちょうど駐車場からの出入り口にもなりますので、まず全員がこのモニュメントに立ち寄っていただく。その途中に11番、「マンガ家の手形パネル」というものがありますが、こちらにはマンガ家の先生方の手形などを設置し、徐々に増えていったらいいなと思っていますが、そういうものを楽しみながらこちらの方に誘導していく。

ここまで来るとトキワ荘の玄関が見えてきますので、あとは自然に人が行くと考えています。また、その途中に、15番の丹頂型電話ボックスを設置します。その中ではマンガ家の先生方の書き割りや吹き出し等により、原稿が遅れる言い訳を書いてあるなど、その状況を楽しく表現したらどうかと考えています。同様に、現在ある公衆便所は、今回新しくする計画になっています。当初トキワ荘の前に電電公社があったので、公衆便所ではその雰囲気再現し、窓などを昔の雰囲気に倣った形で作ったらどうかと考えています。加えて、電話ボックスと同じで、何か楽しい仕掛けができないかと考えています。あとは公園の入口と同じ三角柱のトキワ荘の看板が見えてきます。

17番は木柵と明記をしていますが、腐ったりしたら困りますので、木でも加工したものや、金属製の物を一部使うことを考えています。昔は隣家との間に、低い高さで、鉄条網とか、木の杭と線が張ってある柵がありましたが、それに倣ったような柵を設けて、そこに寄附等していただいた方の銘板を設置したらと考えています。公園の入口からトキワ荘に入っていくルートの説明は以上になります。

**委員A：** ご説明ありがとうございました。今の資料5-1でご説明いただきました公園改修計画について、追加すべき視点やこういう所が抜けているのではないかとということがございました。

ら、ご意見を頂戴いただければと存じます。20分間ほど意見交換の時間とさせていただきますので、ご意見・ご質問のある方は挙手をお願いします。

**委員L：** トキワ荘通りに面している方の公園の入口から誘導する通路について、ここにも縮小と書いてありますが、花壇のスペースは従来もっと広い。これは協定花壇ということで、地元の花壇を世話していただいている方がいらっしゃるが、その方のご了承はいただいているのでしょうか。

**事務局：** 今回これは案としてお示しをしたもので、説明会の時にも協定花壇を管理して下さっている方がいましたので、そういった皆さんと話し合いながら、ここが縮小されることに伴ってどこかほかのスペース等があるのかないのかについてもご相談しながら進めていこうと思っております。

**委員L：** トキワ荘通りは一応メイン通りで、一番目立つところなので、ここを活用しているということになると思う。

それと同じ理由で、次に記念碑について。トキワ荘通りは一方通行で、西側、手前の方から車が来ます。一番目立つところということで、そこに記念碑を置かせていただいたという経緯があります。それを移動するというのは、スペース的な問題から言うと、公園のスペースが広がるので良いという考え方もあると思いますが、キャッチとして一番有効な場所にあったような気がしています。記念碑をキャッチというのは失礼ですが。

それと、通路の部分も。この公園は、町会の祭礼でよく神酒所になります。祭礼の時は、この通路の所まで奉納の掲示板を作っているのですが、この形ですと、掲示板を掲げる場所がなくなるので、ちょっと無理のある設計かなという気がしています。植え込みの部分を含めて通路になっていますので、それほど公園のスペースは縮小されていないとは思いますが、使い勝手の部分でちょっとどうなのかなと。

あと砂場も利用者が多い。これを移動してしまうということだが、どこに移動するかも聞いていなかったなので、お聞きしたい。

**事務局：** 砂場は公園の中で移動ということになっています。

**丹青社：** 砂場は、少しだけ移動させるが、現在とほぼ同じ位置につくる。

**委員L：** わかりました。一応そういったことを確認したかった。私からは以上です。

**委員J：** 1点だけですが、ここに2m近いパーテーションが公園の入口から内側にずっとくるわけですが、これは鉄板でしょうか。

**丹青社：** 現在まだ材質まではっきりとは決めておりませんが、いま漠然と考えているのは、昔の雰囲気を出すため木製で、ガラス塗料等を用いて腐らない形を取ること。木製のイメージでなんとなく考えております。ただ、あまり閉鎖的になってもいけないというお話もございましたので、少し格子状というか、そういった形でいかがかなと思っております。

**委員J：** 2mだと、歩いている人も閉鎖感があるのではないかなと。人間より高い。通路自体も横幅は2mくらいですか。

**事務局：** もうちょっとあります。

**委員J：** もうちょっとありますか。公園をなるべく視覚的に広く見せるには、少し高さを抑えて、視線で見えるくらいの方がいいのではないかなと僕は考えるのですが。ぜひそこもご検討いただければと思います。せっかく公園のスペースをこれだけとっているのに、ここで閉鎖的だと、なんとなく公園全体の雰囲気が悪いのではないかなと思います。検討していただければと思います。

**委員A：** 他はどなたかございますか。

**委員I：** 動線計画を見ますと、当然トキワ荘へ行く方の動線と公園に行く方の動線はここで分かれているということになります。花壇がなくなることも考えると、既にここはもう花咲公園ではないのではないかなと思います。このイメージからすると、「トキワ荘のある公園」というのが相応しいプランになるのではないのでしょうか。それであれば、いま委員Jが言った通り、こんなところに大きなパーテーション付ける必要もない。根本的に、2つの公園というか、2つの機能を持ったものを別々に考えるより、僕が最初に言ったように、ここは「トキワ荘のある公園」なんだと、コンセプトを一から考えていかないと、中途半端な花咲公園になってしまうのではないかという気がすごくしている。もしこれが「トキワ荘のある公園」だったら看板だって「トキワ荘のある公園」で済んでしまおうし、入り口だって別に特定して設けることもないように思います。その辺をちょっと考えていただければ、公園の機能の問題も含めて、これは根本的な問題になるのではないかと思う。

今まで分けて考えていたと思うのですが、このプランを見ると、動線でまわりにトキワ荘の流れが出てくると、どうも公園の機能をあまり果たされないのではないかとちょっと危惧しています。以上です。

**委員A：** ありがとうございます。座長があまり物を申してはいけないのですが、最初にお話があったかと思うのですが、今この公園を使っている方々からこれまで通り使っていきたいと、トキワ荘の再現物ができることによって、これまで使っていた自分たちが日常的なスポーツとかで使えなくなるのはよろしくないということもあって、非常に苦しい折衷案でここまで話が来ていると思います。

そのため、広い土地があって自由な発想で自由に新しく作ればどんなに楽かと思うのですが、やはりトキワ荘の再現物をつくるよりも公園の機能をこのまま残して欲しいという声もあり、せっかく作るのだから、トキワ荘をもっと目立つようになんとかしてほしいという声もありで、非常に難しい。でも区の立場からすると、区民の皆さん全員の色々な声を聴かなくてはいけないので、どちらにも付けられないのではないかと思う。

なので、ある程度具体化したこの段階で、中途半端ではないかという印象があるとしたら、この計画を推進していく側としては、乱暴な言い方ですが、出来上がったものが将来的にこの地域にとってとても素敵だなと思えるようなものになれば、失われた機能についてはお許しただけのではないかなとは思っています。でも、難しいですね。なので、区としては、これに対して「ああしたい、こうしたい」とはきっと言えないんですよ。

**事務局：** 実は、トキワ荘の再現施設をつくる部分のオープンスペースが減るということで、その代替地の確保の交渉を進めています。まだ具体的にどここの場所かを申し上げられるような段階ではないのですが、そちらが確保できた際には、そちらの使い方について地域の皆様と一緒に、検討していきたい。広場になるのか公園になるのかということはあると思いますが、軽いスポーツをやっていらっしゃる方が利用できるなどの工夫が出来れば、皆さんの合意をいただいて、花咲公園はトキワ荘公園としてトキワ荘と一体となってスタートができるのではないかと思います。ただ、今の段階では、現状で使っている方が使えなくなる、ということにはできないという状況で考えています。

**委員I：** トキワ荘通りから入ってくるアプローチというのは、この前の、住民説明会の時にはないですよ。これだけスペースを大きなパーテーションで分けるというのは、理解が難しいのではないか。むしろ皆さんが考えていたのは、駐車場からの出入り口の方向性を考えていた

ので、その辺までは許される感じがするのですが、この長さでは、理解が得られるかどうか分からない。

**委員K：** お祭りやイベント等に関して、反対意見が出てしまうかもしれない。委員Lが言われたことと同じです。

**事務局：** 今回の整備案については、最初にこの検討会議でお示しをさせていただきました。今日皆様からいただいたご意見を踏まえて、また地域の皆様にもご説明をさせていただいて、ご意見をいただきながら検討していきます。動線については、説明会等や意見交換の中でちゃんとゾーニングしてほしいというご意見も出ていましたので、そちらを反映したものとはなりますが、地域の皆様がこのプランを見てどういう風にお感じになるのかは重要と考えています。本日、具体的に、地域での祭礼等での使い勝手というご意見もいただきましたので、地域の方にご説明に伺わせていただき、意見交換をさせていただきたいと思っています。

**委員J：** 人間の動線として感覚的に考えますと、入り口はゲートも守る人間もいない、オープンスペースですね。そうしますと、入る時は、結果としてここから入ってくるのですが、恐らく来た方は公園の真ん中を通って見ながら出ていく人が多いと思う。現在の入口は2mほどの幅があるが、知っている人や一度来たことがある人はわざわざ通路を通らずに、公園の真ん中を通って入ってくるのではないのでしょうか。例えば僕がどこか行った時、わざわざここから入らず、ど真ん中の花壇の間から公園を抜けていくだろうなど、そういう想像ができる。

僕は色んなモニュメントのスケッチをしているのですが、トキワ荘そのものが一番貴重なモニュメントだと思っているんです。ですからこの大事なモニュメントのある、この公園ということで、トキワ荘通りにサインさえつけておけば来た方には分かるでしょう。公園を広くして、非常にオープンな感覚でとらえると、こういうルートを作ってもいいとは思いますが、仕切りはしないで真ん中から入っていただいて、ここに町会で建てる神酒所とかに使っていただいて。神酒所のときはそれに使えるし、両方向から考えると妥協点が見つかるのではないのでしょうか。非常に使い勝手がよくなるのではないかと思います。

**区長：** 今色々お話ししていく中で、まずこの花咲公園へトキワ荘を復元しようとする、その分は大変大きな面積を取る訳で、最初にここに設置しようとなった時には、地元の皆さんから、公園が小さくなってしまおうということを強く言われていました。代替としてトキワ荘で使えなくなる部分、同等以上の公園を必ず作ることが、地元の方々にご納得いただくためには第一だと思っています。トキワ荘がオープンした時には、町内のできるだけ近い場所に、それに代わる公園を作るのが、地元の方々との約束だと思っています。何としても代替の場所を確保するよう、いま水面下で色々やっています。それが第一の条件だと思っており、説明会でも明言していますので、私が区長をやっている限りはその約束は守ります。それからオープンの際には絶対に間に合わせるように。そうでないと地元の方に嘘をついたことになってしまいますので、そのような形で進めさせていただいています。

**委員A：** すみません、立場をわきまえず質問をしたくなってしまいました。  
代替地は、この公園に匹敵する大きさの場所を用意されるのですか。

**区長：** そうです。

**委員A：** となると、ここはもう自由に使っているのでしょうか。

**区長：** いいえ。ごめんなさい、これだけ広い大きさの面積はなかなか取れないので、トキワ荘の復元で使う倍くらいの大きさの面積が候補地としてあってお話をしております。

**委員A：** トキワ荘が奪った分くらい、ということでしょうか。

区長：　　そうです。

委員A：　　それでは、公園はここと新しい所、第二公園と分散するわけですね。

区長：　　そうです。

委員A：　　第二公園がトキワ荘を締めるくらいの大きさ、これよりも大きい場所が手に入るのであれば、いっそトキワ荘をそこに建てるというのではないのですか。

区長：　　そういうご意見もいただいていたのですが、第二公園の候補地は少し奥に入る。記念館とかは周辺に迷惑をかけると聞くので、周辺の住宅地は避けたい。例えば、今までトキワ荘のあった、今、加除出版のある所に復元したとしても、トキワ荘に来る方が周辺に迷惑をかけるので、あそこで復元というのは絶対に無理だと思っています。この花咲公園は、ご近所に迷惑をかけないということはもちろんありませんが、公園で通りに面しているということといいと考えました。通りに面していないと、見に来られる方々にとっては、奥に入るのは大きなハンディキャップとなると思う。候補として考えている公園にそれをもっていったとしたら、もっと周辺の方々にご迷惑をかけるのではないかと思う。

お住まいになっていた所に復元することが多いが、住宅街の中に入っている記念館というのは、あまり発展していないというか、遠慮しながらの記念館になる。

私はこの花咲公園にトキワ荘を復元することを皆さんにご了解いただきたい。トキワ荘通りに面しているということ、私は、これが大事な条件だと思っている。今、委員Aが仰った通り、この倍以上の土地を確保するのであれば、そこに建てた方が解決する問題もあると思うのですが。

あともう一つは商店街を活性化したい。今空き店舗になっているところに、色んな形のマンガに関するお店を誘致したりすることで、トキワ荘通りを復元したい。私はもちろんトキワ荘そのものを復元することも大きな意義のあることだと思っていますが、それ以上に、今はシャッター通りとなっている南長崎のあの通りを、トキワ荘を中心としてなんとしても賑わいのあるまちに発展させたい。色々調査をして、空家の調査とか何から全部して、どうすればここにお店の誘致ができるかということも、文化商工部でもやっている。地域のまちづくりというか、一石三鳥くらい狙っている。ここに復元することによって、トキワ荘通りが賑やかになる。奥に入ってしまうと周辺の方々へ迷惑となるうえ、なかなか目立たないし、周辺は、住宅地のど真ん中です。

委員A：　　わかりました。でも、先ほど委員Jが仰っていた通り、普通お客さんは、いくら誘導しても公園を突っ切って出入り、どうしてもそうなりますよね。そうしますと、実はこういうものを作ったら、自分たちが遊んでいたところを人が通るから嫌だという、地元の使ってもらってる方の声があって、今、一生懸命誘導路を作ってゲートボールの邪魔をしないようにとか色々考えていても、やはりトキワ荘を見にいらした方は、見終わった後は自然と公園の真ん中を突っ切ってお帰りになる。そうしたときに、「ほらやっぱり邪魔をするじゃないか」となったら非常に雰囲気が悪くなる。ここはくつろぐ公園で、なにか球技とか軽いスポーツは、もう一つの公園でやっていただくと決めてしまったほうがいいかもしれない。でも地元の方の中にはきっと「この前までここでやっていたのだから、また同じ場所でやりたい」という方は絶対でできますよね。

区長：　　今、仰ったように、代替できるような形で考えていきたい。

委員L、あそこを使っているのはゲートボールとかですか。

委員L：　　ゲートボールと、園庭のない保育園とかが使用しています。



区長： 園児が来るのは問題ないですけども、ゲートボールは試合をやっていると通れないですからね。

委員L： ゲートボールは練習なのでいいのですが、町会の神酒所となりますと、意見交換会の中でも「必ずそれは妨げない」という担保を町会で取っていますので。

区長： お祭りとか盆踊りとかは優先的にということで、それはもう条件ということでいいのではないですか。

委員L： この通りに面したここは、公園の中でも当然一等地、二等地になるので、この部分は一等地の部分になりますので、そこを通路で削られるということになると、かなりの反対意見は間違いない。

区長： でも毎日ここでやるわけではないですよ。盆踊りだって。

委員L： もちろんそうなのですが、町会にとっては年に1回のメインイベントなので。

区長： それはちゃんと確保するようにしましょう。年に何回かやられるときには、そこは大いにやってもいいのではないかなと思っています。お互いに協力をし合いながら。極端なことを言えば、その間トキワ荘をお休みしてもよい。

委員L： いや、そこはトキワ荘と連携したい。

区長： わかりました。それをうまくできるように考えていく。基本的なことはできるだけご理解いただけるように。

先程言われたように、公園自体は小さくなる。豊島区は区民1人の公園面積が、23区内で一番少ない。その公園の代替案をなんとかクリアしないと、地元の理解は得られないと肝に銘じていますので、その見通しがあるからこそ、こういう計画を進めています。そこは私の責任でやりますので、そこはぜひ地元の方にご理解いただけるようにいたします。

時期がずれるかどうか、いつ頃かということは、これからですけど、よろしくどうぞお願いします。

委員A： 今のテーマで何かございますか。

委員F： 僕はこの図を見ていて、通路の入口から真っ直ぐ前を見ると、トイレが見えるなど。両側のパーテーションにはサインやポスターなどが貼っていると思いますが、それが常に同じだったらつまらないと思うのですが、変わっていくのであれば、来る人は毎回そこを通過してくれるのではないかなと。あと公園側から見たときに、その壁が単に壁に見えるのか、もしくは楽しい絵が描いてあったりして楽しめるものになっているのかで、かなり印象が違おうと思う。なので完成した時のものを色々想像していました。その途中、通路の途中にもマンガ家手形パネルとかもありますよね。ここを訪ねてくれる人は、何度もリピートしてくれる人もいるかもしれませんが、例えば地方から来られる方とかは、そんなには頻繁には来られないかなと思うので、ここをむしろ通ってくれるのではないかなと、僕は感じているのですが、いかがでしょうか。

委員D： 私も今のご意見と、非常に同じようなものを感じている。まずトイレの位置をどうしてこの場所に設定したのか。エントランスの方から見ると、アプローチの正面にトイレが出てきますので、もう少し回避できるのではないかという気もするのですが。メリットはどのようなものかというのを一つ聞きたい。あと、今ここに既存の公衆トイレがありますが、こちらにいるんな絵が描かれています。これはトキワ荘に関係する方々が描かれた絵とはまったく違うものとして理解していいのでしょうか。ここに描いてある絵や虹のようなものも、もし商標的なものであれば、こういうものも取り入れていかなければいけないのかなと思うの

ですけれども。

**事務局：** この公園のトイレの絵については、この南長崎公園をつくった際に地元の小学生に描いていただいた絵で、トキワ荘とは関係がございません。

**区長：** いずれにせよ、全部作り直すのですよね。

**事務局：** 今回トキワ荘の整備に合わせてトイレは改修します。

**区長：** それでは今のお話にもあったように、なぜ、トイレはここでないといけないのでしょうか。

**事務局：** なぜかといいますと、トイレは迷惑施設になるところがあるため、配置が民地側にいくと、嫌がられてしまう。これは概ね既存の位置と変わらない場所。丹青社からも駐車場の方に持っていこうかという提案もあったのですが、こちら側に持っていくと民地側に近づくのと、このエリアを広く使いたかったので、それだと位置はやはり変えない方がいいのではないかとということとなり、ここに決めさせていただいた。

**区長：** 皆さんの意見を聞いて、僕は、トキワ荘よりもトイレの方が目立ってしまっているなど。全然目立ってしまう。これからどのように改修していくのか。昭和のレトロなトイレにするのか、あるいはトキワ荘と同じようなミニチュアのトイレにするのか。やはりトイレもトキワ荘と関係しているようなムードを作らないと。今のトイレを直すというより、これだと本当に正面なので、トキワ荘より全然目立つと思う。位置がここでいいのか。もう一つ、トキワ荘に関係したような、雰囲気を作りあげるトイレである必要があるのではないかと思うが、丹青社さんはどう思いますか。

**丹青社：** 最初は見栄えからすると、今ご説明ありましたように、もう少し位置を離れた方がいいのではないかとご提案もしていたのですが、そうすると民地に近づくということもありますので、そこはいたしかたないのかなと思っています。

ただその代わり、先ほどちょっとご説明をさせていただきました通り、当時の佇まい、実際に建物のあった時の外装を模して、いかにも「トイレ」という形ではなく、トキワ荘の時代とリンクしたような佇まいにしてはどうかと考えています。

あと、入り口からトキワ荘通りの入口から見たときに、できればトイレとトキワ荘の本体が重ならないように、ぎりぎりの所には置いています。そのため、トイレと建物の見栄えとしては、ぎりぎりのラインで落とすところを見つけているという状態ではあります。

**区長：** ぜひ、豊島区のまちづくりを少し勉強していただきたいと思う。豊島区の166あるトイレのうちの85か所、これを全部3年間で改修します。アートトイレと言って、一つひとつ、デザイナーの方々に描いてもらって、第一段はスタートしています。今年だけで、15か所改修する。

公園に合ったトイレにするということで、子供さんや女性の方に入ってもらえるような、そういう雰囲気を公園に合わせて作っていかうというプロジェクト。画一的ではなく、公園に合わせた形で作っていく。その場所に合うような形にする。相当知恵を出します。

今回、豊島区は子育てしやすいまちの全国ナンバー1になって、それにふさわしいまちを作っていくということで、公園も全部禁煙という条例も、今定例会に出しました。公園の活用というのは、今までと全然違った取り組みをしていきたい。できればこの公園も一つのモデルになるよう、トキワ荘復元の価値をさらに高めるようなトイレの設計をお考えいただけるといいと思います。

**丹青社：** そうですね。機能としては必要なものになりますので、そこは今ちょっと迷惑施設という印象もありますけれども、そういうデメリットをトキワ荘とセットにして、ここにしかない

オリジナリティのあるユニークな、むしろここにあるメリットとして活かせる見栄えを目指したいと思っております。

**区長：** ぜひここトキワ荘に合うデザインでお願いします。少しお金が高くなってもいいです。それくらいの価値があります。

**事務局：** 区長、ここは別予算で要求しようと思っているところです。

**区長：** やっぱり、このトイレで価値を作ろうよ。

**事務局：** 元々の85か所からは除いています。

**区長：** 86か所になるということですか。

**事務局：** いえ、事業と一体となる公園の整備は入っていません。例えば池袋西口公園も85か所の中には入っていません。別物として、ここに合うようなトイレとして考えていました。

**区長：** もともとマンガとアニメの融合と言っているのだから、思い切ってアニメのトイレにしてしまうとか。そういう価値をつけるようなトイレを考えて、まちを変えていく。特に今回トイレについてはムキになってやっていますけれども、トイレによってまちが変わっていくお手本になるよう、トキワ荘とアニメを繋げるなら、アニメのお城みたいなものを作っちゃうとか。携帯でトイレを写すようなトイレにしたい。

どれだけ素晴らしいトイレができるか、期待してください。このトイレを見に来るためだけに人が来れば、もっとかっこいい。それぐらいの気持ちで、みんな知恵を出し合った方がいい。このトイレの話はすごい大きいですよ。ただトイレを作るということではなくて、イメージを上げていくという取り組みは、他にはないと思う。これはぜひ皆さんの知恵を出していただいて、アニメイトさんも考えてくれたらすごいものが出来るのでないか。若い方がここを見に来て、携帯で写真を撮って帰るようなことをみんなで知恵を出したら、ここが一つの名物、さらに名所になると思う。ぜひ皆さんの知恵をお願いします。あるいは里中先生に描いていただいてもいいですけど。

**委員A：** 最初から、トイレは絶対に楽しいものにという意見が出ておまして、中にマンガの絵を描いたり、ここにしかないお手洗いで、かつ、それぞれの外壁にはトキワ荘の佇まいにし、中までそれだとあまりにも昭和のにおいがしすぎてしまうので、ちょっとぶつとんでもいい気がしています。あと備え付けのトイレトペーパーがあるなら、それもオリジナルなものにして、これを施設で販売しては。ただし、キャラクターの顔がありますと、それで拭くとは何事だと声も出てまいりますので、一番無難なのは色んな吹き出しが印刷してあって、セリフが中に書いてある。これは誰の作品のどのセリフか分からないですが、それを面白く作ればお土産にもなりますし、評判にもなると思いますね。

トイレは楽しみなのですが、道路から見たときに真っ先に見えるのは、このL字型のせいもあるのかなと思うのですが、形も今後、検討してください。もう少し丸くても良いのではないかな。

**区長：** 公園緑地課にも聞きたいが、今回、外装だけではなく内部まで絵を描くところもあるよな。

**事務局：** そうです。そういう所もあります。トイレの仕様によります。

**区長：** トイレの中のお部屋まで全部絵を描くという思い切った挑戦をしています。

**委員A：** それでないと面白くないので、レバーひとつ、便座の蓋も含めてすべてがやはり楽しいものにならないと、つまらないですよ。でも、ここで人が喜んであまり溜まりすぎちゃうと、問題があるかもわからないのですが、やはり明るくきれいで楽しい場所は清潔感も保たれると思います。やはり世界でこれぞという美術館とか記念館は、トイレの中までアーティスト

の作品で満ちているんですよね。そうなるとう素晴らしい。あとどうしてもお手洗いというところと嫌がられる対象かもしれませんが、生きていくうえで絶対に必要なところですので、トイレの機能、存在そのものをこの公園で見直すことができればよりいいのかなと思います。

後でまた時間を設けますので、議事の(2)に移らせていただきたいと思います。建築設計の変更点、回遊情報コーナー、2階居室の展示についてご説明いただいてからまたご意見をいただければと思います。

**丹青社：** ではまず「2. 建築設計の変更点」について説明します。資料の5-2になります。「新設：空調機置き場」と書いてある所になります。ここは、靴を脱いで裸足で上がってくる場所になりますので、足元が冷たくならないように、また、もともとアパートを再現していることから天井高が低いため、空調機等を天井に入れたりすることができないので、床から吹き出す形を考えています。そのため、空調機置き場を設けさせていただいたという変更です。変更については、これだけになります。

続きまして、2枚綴りの資料5-3です。この資料では主に1階の回遊情報コーナーの説明となっています。1枚目が平面図になっていて、2枚目がそれぞれの壁の様子を描いたものになっています。両方見比べながら見ていただければと思います。

まず1枚目、平面図の方ですが、左上が玄関になります。玄関を入るとレトロ調の当時の縁甲板、フローリングになっているところで、その右側の白い床になっているところが回遊情報コーナーです。この壁の奥が企画展の展示室になっております。壁の真ん中辺りにある扉から企画展示室に入ります。機能としましては、インフォメーション・カウンター、一部をガラスケースにしており、ミュージアムショップとしてグッズが販売できるショーケースを設けています。カウンターの上にはレジを置きレジカウンターも兼ねます。それ以外はオープンスペースとなっており、壁には、本棚と南長崎エリアの観光案内やトキワ荘に関連するインタビュー映像を流す映像装置を備えます。向かって右側の壁は鏡貼りを考えています。企画展示室側の壁には色々なマンガ家の方にトキワ荘への思いやサイン等をいただき、掲示するスペースとなっています。

これを踏まえて、2枚目の壁の様子を見ていただきますと、升目状にブロックが続いているのが本棚であり、その間に2台ずつモニターが立っており、上下一体の縦型モニターとしても使え、一台一台別々でも使えるというものが3セットあります。右側にミラーの壁を設置しているので、本棚の方を見ると、右側の鏡を通して同じ本棚が連続しているように見えるという仕掛けを考えています。

本棚は、1,000~1,500冊程度収納でき、入った瞬間には色々な本が並んでいる壁が、鏡を通して延々と続いているように見え、また、天井も低いと奥に続いているように見える。モニターは3セット設置していますが、鏡を通すと全部で6台くらいに見える。

狙いとしては、2階はトキワ荘の再現ということで、昭和レトロな雰囲気です。インスタ映えする空間になると思うのですが、回遊コーナーもありがちな交流センターのような内装ではなく、少し非日常的な、「異空間に入ったぞ」というような形で、こちらも他の空間と比べてインスタ映えする空間にしてはどうかと思っています。昭和な感じとか、今どきの交流センターのような見た目ではなく、マンガの世界、アニメの世界を感じるような、近未来感を彷彿する非日常的な空間を目指したい。マンガなどの色々な図書を読むスペースのため、必要に応じてソファや机を置くこともできますが、基本的には固定的なものではなく、オープンスペースで考えている。

続きまして資料の5-4「2階居室の展示」をご覧ください。「イベント展示コーナー」と書いてありますが、ここは前回、再現展示をしないお部屋とご提案させていただいたところ  
です。もっと積極的に使った方がいいのではないかとご指摘・ご意見をいただきました  
ので、その点を鑑みて、資料等は置かないけれども、映像装置や体験型プログラムなどを展  
開する場として展開できないかと考えて、空いている部屋を積極的に活用し、「イベント展示  
コーナー」として展開案を考えました。

各部屋共通ですが、「この部屋に、この先生が、この時期に暮らしていた」という基礎的な  
情報は、どこかにグラフィックを設けて、きちんと解説をしていく。それに加えて面白いネ  
タとして色んなアイテムを散らしていく。それがB-8-2と書いてある、表組の右側です。  
14号室は、マンガの聖地の原点となる、手塚先生が入居された部屋ですので、そういった歴  
史を映像で紹介できないかと考えています。カーテン風スクリーンにプロジェクター、例え  
ば幻灯機風の仕掛けをして、当時の幻灯機で投映をしているかのような映像コンテンツによ  
り、手塚先生が入居してスタートしたトキワ荘の物語を、昔のアニメ風に紹介できないかと  
考えています。

15号室は藤子・F・不二雄先生が暮らしていた部屋です。ここでは、トキワ荘やマンガ、  
青春時代等のテーマについて、マンガ家の先生たちが残してきたお言葉を取り上げ、吹き出  
し型のグラフィックパネルで展示していくというものを考えています。

16号室は赤塚先生が暮らしていた部屋です。コンテンツとしては、「B-10-2.マン  
ガができるまで」として、当時の一般的なマンガ家の室内を再現し、プロジェクションマッ  
ピングにより、文机の上に来館者が紙を置くと、そこにマンガが描かれていく過程を再現す  
るコンテンツができないかと考えています。

17号室は、石森先生が暮らしていた部屋です。アシスタントの方もいらっしゃった部屋  
ですので、ここでアシスタント体験ができないかと考えております。描きかけのマンガを用  
意しておき、来館者がベタ塗りやトーン貼り、ホワイト掛けといった作業を体験し、その原  
稿を記念にお持ち帰りいただける体験コーナーを想定しています。

21号室は、「マンガ家なりきり撮影部屋」として、マンガ家の部屋をイメージした再現を  
行い、小物なども用意して、来館者が自由に記念撮影できるようにする。また、館内に大き  
なものが展示できるスペースが少ないので、押し入れのふすまを外すと、展示スペースとし  
て利用できる部屋と考えています。

22号室は、寺田ヒロオ先生の部屋です。色々なエピソードをお持ちで、皆さんがどんち  
ゃん騒ぎをしたりと楽しい活動が行われた部屋です。こうしたエピソードをもとに、プロジェ  
クターで壁に人影を映して、9chのAVアンプによる音の演出を行うことにより、何人か  
の人がどんちゃん騒ぎをしている部屋に自分がいるといった演出を検討しています。

**委員A：** ありがとうございます。今のところでご質問、ご意見ある方はいますか。

**委員B：** 1階の壁の本棚になるという所は、交互にプロジェクターみたいなものがあるのはいいの  
ですが、それ以外の所で、なぜ本棚の所とそうでない所が筋状に、等間隔のストライプ状に  
作られているのでしょうか。もう少し本棚を増やしてもいいのではないかなと思うのですが、  
これはなにか強い理由があったのでしょうか。先ほど、全部で千何冊と仰っていましたが、  
千何冊ってマンガにとってはそんなに多くはないんです。なので、もしそんなにこだわりが  
あるストライプでなければ、もう少し本棚でないところの幅を狭くするとか、もう少し大き  
な本棚にできないのかなと思いました。

**丹青社：** 今回の設定すべき冊数があれば、増やすことは良いと思っています。今は意匠的にミラーを使って連続性を出すということと、壁の裏に柱があり、本棚として埋め尽くせない場所がある。そのため、このような意匠により上手く吸収することによって、壁のリズムは崩さないようにデザインした。冊数を調整する、幅をもう少し増やすということは可能です。

**委員D：** 本棚のかなり高いところまで本が入っていますよね。具体的にここに来た人が自分で本を取るわけですよね。

**丹青社：** よく図書館でもあるのと同じように、上の方にある本をお客様がそのまま取るというのは難しいと思いますので、そこに置くべき本というものをまず選ぶ必要があるかと思います。あと、それと通常大きな壁一面が本棚になっているような図書館や本棚だと、簡単な脚立などがあります。ただ、ここは一般の方が利用する所になるので、運用上の工夫も確認を取りながら、使い方を検討していく必要があると思います。基本的には手の届く範囲に必要なものは置かれていて、上の方は割と展示に近い意味合いのものになるかと思います。

**委員D：** わかりました。ただ、そうは言いながらも、中には「上に展示されているものを取りたい」と言う方が出てきますよね。ゼロではないですよね。そういう時に脚立でもいいのですが、万が一、脚立で転んでしまった時にどうするか、ということに対してどういう対応がされているのか。また、平面図には何も家具が置かれていなくて、必要な時にソファを置いたりということでしたが、ある程度どこにどういうものを置くのかということを示していかないといけない。使っている途中で、椅子が欲しいから持ってこいという話ではないと思う。コンセプトとしてはそういう風に使ってほしいというのは分かるのだが、現実的にはそれで対応できないので、どういう家具をどこにどう置いていくのか、どう使ってもらうのか、もっと具体化していかないと、これの良し悪しがこの場ではなかなか決められない。逆に今のお話だと、インフォメーション・カウンターの方がかなり重労働で、色々動かなければいけないことがあると、お年寄りの方では無理ですよね。色んなことを含め、規制がかかってしまうのではないかと。そういった条件に合うスタッフを確保したいというのであれば、それでもいいとは思いますが。その辺を少し明確にした方がいいのではないかなと思いました。

それから、ミラー貼りというのは空間が大きく、広がりが見えるのは確かだと思うのですが、それはこの空間に本当に必要なのか、この空間を異空間と見せる方法として適切なのか、イメージがいま一つ掴めない。この点をもう少しご説明いただければと思います。

**丹青社：** 本棚の高さ方向の運用については、仰る通り色々ケアをしていかなければならないことがありますので、今後も詰めていく必要があると思っています。ただ、ここは天井高が低く2,500mm程ですので、工事で使用するような脚立ではなく、通常の図書館では用意されているような、登りやすい、手すりのついたものを用意していく必要があると思っています。

先ほどの繰り返しになりますが、意匠的には本棚は上まであった方が迫力は出ると思いますので、そういうものを活かしながら展示する。

家具については、仰る通り、想定はしておいた方がいいかなと思います。とっぴらえば、オープンスペースとして色々多目的に利用できるということで、趣旨としてはあまり固定的に、アンカーを打って固定するような家具はない方がいいと思っているのですが、どれくらいの人数がくつろげるのか確かめますので、一度設定してみたいと思います。

奥のミラー貼りですが、今壁一面がミラー貼りになっていますが、この効果を出すだけであれば、本棚に一番近い壁の1～2mだけでも効果はあると思います。そういったことも含めて、この壁の使い方については、もっと詰める必要はあると思います。もう少し工夫して、

トリッキーなものにしたいと思います。

**委員A：** お部屋の中の再現について、確認したいことがあります。石/森章太郎先生の部屋に、ブラウン管テレビが置いてあるという設定ですが、ここに「24型程度」と書いてあります。石/森先生が住んでいらしたのは1961年までですよ。この時代、24型は一般的にありました。家庭のテレビは14型と決まっていた。だからここに24型がくるとすごい違和感があって、大丈夫かなと思う。それに、これ本当に当時の物じゃなくても、側だけそれらしければいいわけで、画面の中に、ここの当時のニュース映像とか写っていると余計雰囲気が出るのかと思いました。

今ふと思いついたのですが、先ほどから出ておりますミラー貼りですが、ここのミラー貼りは奥行きがあり、ここがデッドスペースになっていてもったいない。もしミラーを外しても、壁一面ではなく、ここになにか物を置ける棚があるといい。その扉の正面がミラーになっていれば物もしまえるし、鏡の効果も出せると思う。

いずれにせよ、実際に先ほどから出てますように、上の方の棚に置くと、誰も読めなくなってしまうよ。読んでいただく本は、ここに置けないですよ。そうすると実質、手に取って見ていただける本はどれくらいでしょうか。

**委員B：** 実際に施設を運用して、企画展を行ってみたいと分からないと思いますが、関連する本を実際に読ませるということをよくします。マンガ展では原画や関連資料を展示するだけでなく、そのマンガがすぐ近くにあって、手に取れる。企画展示室で読ませるという方法もありますが、私はこの本棚を活用して、ここで読んでいただくのもいいと思う。だとすると、全部はいらなくて、一部になりますよね。

あと、ここはそういうコーナーです、こういうコーナーですというちょっとした看板が付けられるようにしていただくとすごくいいと思います。

恐らく、ここに置いてある本は自由に手に取って読んでもらうということになるので、消耗品扱いになると思う。ここの本棚の使い方としてはそういう使い方がメインだと思います。どういう本を消耗品扱いにするか検討する必要がある。どういう風を集めるか、買う、寄贈してもらうなど、色々な方法があります。寄贈だけでは集まらないので、一部は買わなくてはいけなくなると思います。

あともう少し本が並べるようになるのであれば、定期的に入れ替えて、その時々合ったものを読んでいただくスペースも面白いのではないかと思います。冊数的には、そういう使い方になるのではないかと思います。

**委員C：** というご意見がありましたけれども、私ずっと前からお話しているが、どんな資料を集めるのか、方針がまず全然わかっていない、決まっていないですね。非常に貴重なものを手に取って読んでいただくというわけではいけないので、通常に市販されているものでしたら、タブレットでいいと思います。実際に本棚を置いて手に取ってということではなく、タブレットで読めるようにするのが一番いいと思います。特にトキワ荘の先生方のものが読める機会はあまりないでしょうから、ここに来て読める。そうするにはタブレットが一番いいように思う。あと、現状で市販されていないものは、タブレットになっていないと思うが、それは貴重なものなので手に取って消耗品扱いするのはいかなものかと思う。読める、読むこと自体の体験も当然必要ですが、資料と消耗品は分けて考える必要がある。

**委員A：** 確かにマンガは20～30人が読むと、結構、傷んで汚くなる。貴重なものはあまり手に取られない方がいいと思う。今、仰ったように電子配信しているものは、タブレットで読め

るようにするには、それなりの使用料が発生しますし、あるいは寄贈していただいたものをデジタル化して、ここで電子的に読むようにするにも費用がかかる。そういうのも、運営費の中に組み込んでおいた方がいいと思います。

館内だけで通用するかたちで、マンガをタブレットで読んでもらう仕組みも必要かと思う。そのまま外に持って行って、公園では読めてしまうのかもしれないのですが、著作権の問題もあるので、そこはしっかりやられた方がいいと思います。実際に著者がOKされていて、デジタル上で読める作品はいっぱいあるわけですよね。そういうところと館が契約するなりして、館内に入れば自由に読めるというようにすれば、入場料もいただく訳ですから、なにか反映できればいいと思います。今後の話になるとは思いますが、やっぱり紙はぼろぼろになって汚くなりますし、万が一、何らかの感染症などがうつるということもあります。もしノロウイルスなどが出たら、ここにあるもの全部消毒しなくてはいけなくなりますし、貴重な本にはできない。飾るだけ、見るだけというものが多くなると思います。

**委員D：** 小さなことですが。2階の居室、21と22号室に押し入れがありますが、この押し入れはどのように利用するのですか。21号室については押し入れケースで使うと書いてありますが、他も全部同じような使い方でしょうか。こういう空間で押し入れがあつたら、ついつい開けたくなると思うのですが、そういう面白さがあつた方がいいのかもしれないんですが。どう使うのでしょうか。

**丹青社：** 押し入れについては、一部に柱が入っている箇所もあるので、基本的には開かないようになっています。施設全体として倉庫が少ないので、掃除道具をしまう場所やパンフレットのストックをしまう場所など、運営側で使っていくことが想定されますが、いまのところ、使い道を限定していません。

**委員A：** そうなると、開かないようにしておかないといけませんよね。目立たない鍵を付けていただけないかと思います。

議事の3、管理運営計画に移ります。ミュージアムが開館してからの運営について説明いただきたいと思います。事務局からお願いします。

**事務局：** 資料の5-5、管理運営計画についてご説明いたします。現在までの検討状況についての資料となっています。

まず、運営計画の運営方式につきましては、業務委託もしくは指定管理者制度というところで引き続き検討を進めている状況です。効果的な運営計画をめざし、検討を進めています。

入館料ですが、検討会議のなかでこれまでお話してきた部分を整理しました。入館料収入により収益を求める施設とは考えていませんが、トキワ荘の文化的価値を保証し、来館の妨げとならない程度の入館料の設定ということで検討をしています。また、企画展をやっているときとやっていない時で入館料を分けたり、小学生、中学生、高校生、障害をお持ちの方等々の割引、またリピーターの獲得のためには、年間パスポートの設定というものも、今後考えていった方がいいだろうということで検討を進めています。参考として、マンガ関連の博物館の入館料や、パスポートを設置している等の情報、延床面積を記載しています。一番下に、(仮称)マンガの聖地としまミュージアムの延床面積を記載していますが、こういった点も参考にしながら、入館料の金額について検討を進めていきます。

休館日、開館時間については、現在のトキワ荘通りお休み処の開館時間等や、他の記念館・ミュージアム等の開館時間も踏まえ、休館日は、一般的な「毎週月曜日」、開館時間については「10時から18時」とするのが良いのではと考えています。



4点目のお休み処の展開についてですが、前回の会議でも申しました通り、寺田先生の居室の再現を、現在のトキワ荘通りお休み処から本施設に移設できないということがあります。現在の寺田先生の居室再現は現況のままとします。また、2階では現在、企画展を行っていますが、本施設に統合したいと考えています。それによって空いたスペースを、マンガ等の閲覧スペースとして整備していきたいと考えています。

続きまして、2ページ目をご覧ください。現在の所でのこの施設の機能や、1～2階の展示規模を踏まえた上での人員配置の想定を示したものです。

組織図の案では、館長がいて、学芸部門と運営部門があり、それぞれ必要な職員数は、学芸部門で3人、運営部門では運営スタッフとして常時3人と考えています。展示室、ミュージアムショップ、企画展の対応ということで必要と考えています。

学芸部門、運営部門の主な役割としては、学芸部門では、調査・研究、展示・公開、教育普及、資料収集・保存、回遊促進、情報発信等を学芸部門職員3名で担っていく。運営部門については、利用者サービスとして、受付、発券、管理運営等の業務を担っていくということで、今のところ、3名と想定しています。

続きまして、事業計画をご覧ください。基本計画等の中でも企画展等も開催していくとしていました。特別展、企画展、所蔵品展というような形で分けて、それぞれの概ねの開催日数を想定しました。そのほかに、イベントも合わせてやっていければと思います。開館日数は、おおよそ310日、休館日は、週1日、年末年始とメンテナンス等で55日程度で想定しています。

また、3点目に今後、開館に向けた事業活動として取り組み予定のものを記載しています。まず1点目が、冒頭の挨拶において区長も申し上げましたが、トキワ荘関連施設整備基金の設置・寄附の募集です。検討会議の委員の皆様にも、寄附募集をするにあたり発起人になっていただきたいという依頼の文書を、直前ではございましたが、お送りいたしました。発起人としてお名前をいただきまして、誠にありがとうございました。期間がとても短かったということもありまして、まだ、お名前をいただいていない皆様につきましても、先ほど区長が申し上げた通り、発起人になっていただきたく、引き続き、ご依頼したいと思っていますので、よろしく願いいたします。

寄附の募集は、2月17日より開始しています。パンフレットも、先ほど区長にご説明いただいたとおりです。目標額は、今のところ、1億円としています。多くのマンガファン、トキワ荘ファン、また、豊島区では国際アートカルチャー都市を推進しておりますが、理解の深い皆様からのご賛同をいただきながら、この事業を推進していきます。平成30年度以降には、インターネットを活用した寄附募集についても開始していきたいと考えておりますが、詳細は現在検討中ですので、内容が固まったら皆様にご報告したいと考えています。

ミュージアムの整備費としては、28年度から31年度の事業費全体で949百万円あまりと見込んでいます。特定財源として、基金として積み立てた1億円、東京都からの補助金、特別区債を活用するほか、一般財源として、522百万円の区民の皆様からの税金を投入することになっています。

運営体制の検討や整備についても、引き続き進めていきます。

今回の会議が5回目で、4月の6回目を以て、展示・建築に関する検討会議は、一旦、終了となります。その後、運営に関する検討会議を立ち上げ、さらに運営について検討を進めていきたいと考えています。

資料収集についても、委員会等を設置し資料収集の方針を決めたうえで、資料収集を進めていきたいと思ひます。そのための専門職員として、非常勤ですが学芸員を採用することとし、現在、募集期間中です。採用した職員と、文化観光課のマンガ・アニメに関する事業の企画展等を行っている学習指導員とともに、資料収集の方針等も考えていきたいと思ひます。その際には先ほど申し上げた通り、委員会等を設置したうえで決定していきたいと思ひます。

3点目が、トキワ荘通りの観光振興基礎調査についてです。昨年の11月から12月、さらにヒアリング等を1月までかけて行っています。この結果は、間もなく報告書という形で皆様にお示しできるかと思ひます。トキワ荘通り周辺の商店街の皆様や、空き店舗を活用したマンガ・アニメによる地域振興を、観光視点での事業展開を今後進めていきたいと考えております。

**委員A：** ありがとうございます。今お話しいただいた管理運営計画の基本の考え方ですが、これをお持ち帰りいただいて、疑問点があれば、次回にお話しいただければと思ひます。

時間が押してしまいましたので、そろそろこの議事は終わりにしたいと思ひます。

事務局から連絡事項はありますが。

**事務局：** 事前配布資料として、前回の議事録を配布しています。修正点がある場合は、事務局までお渡しいただければと思ひます。

最後に、次回の開催日について決めさせていただければと思ひます。これからご紹介する候補日について、都合の悪い方は挙手をお願いします。一番都合の悪い人が少ない日に決定をさせていただければと思ひます。

**委員A：** 候補日が2つございます。4月19日木曜日と4月20日の金曜日です。時刻は本日と同じ、午後7時から午後9時です。この2つの中で、都合の悪い方は挙手をお願いします。

まず4月19日木曜日にご都合が悪い方いらっしゃいますでしょうか。

一同： (挙手なし)

**委員A：** 本日ご欠席の方にも聞かなければいけませんので。4月20日にご都合が悪いという方。

一同： (2名挙手)

**委員A：** いらっしゃいますね。それではこの場で決めさせていただければと思ひます。次回は4月19日、午後7時から9時です。

本日は貴重なご意見をありがとうございました。先ほど申し上げましたが、本日の資料をお持ち帰りいただいて、色々ご検討いただければと思ひます。それでは、第5回(仮称)マンガの聖地としまミュージアム展示・建築設計検討会議については、これで終了とさせていただきます。ありがとうございました。

提出された資料等	<p><b>【資料】</b></p> <p>資料5-1 公園改修計画          資料5-2 建築設計の変更箇所【委員限り】          資料5-3 回遊情報コーナー          資料5-4 2階居室の展示          資料5-5 管理運営計画</p> <p><b>【参考資料】</b>          (仮称)マンガの聖地としまミュージアム展示・建築設計検討会議通信 vol.3、vol.4</p>
----------	---